

話し合い活動の手引き

§ 9 話し合いを行う ～意見を比べ合う

2つ目は、意見を比べ合うことについてまとめたいと思います。

いろいろな意見が出されたら、それらを分類・整理し「比べ合う」ことによって、よりよい取り組み方を探っていくことができます。「出し合う」「比べ合う」「まとめる」の三段階の中で最も時間をかけたいのが、この「比べ合う」段階です。この時間をしっかり確保して集団決定を図るためにも、子どもたちが時間を意識しながら話し合い活動を展開していくことが大切です。

複数の意見が違っていれば、提案理由に立ち返って考えさせることも大切です。そして、「両方のよいところを合わせたものにできないか」「両方のよいところを取り上げて新しいものが生み出せないか」などの観点から話し合うことができます。よりよい考えを見いだすために「比べ合う」とは、「分かり合う」「聞き合う」という意味だということ（指導資料）。

「比べ合う」段階では、賛成意見や反対意見を述べ合い、互いの考えの違いや共通点をはっきりさせるとともに、よりよい考えを見いだすために「似た意見を合わせる」など創意工夫しながら話し合いをすることが大切です。

その1) よりよい考えを見出す

比べ合う段階では、よりよい考えを出し合うことをねらいとします。そこで、賛成意見と反対意見を別に出させる方法も考えてみたいと思います。これは、新潟の橋本先生に教わった方法です。

- i まず、賛成意見を求めます。その後に反対意見を求めます。
- ii ある意見に賛成が集中した場合、「〇〇にまとめていいですか」と問います。
 - ・異議がなければ合意。決議となります。
 - ・異議を示した子どもがいる場合 iii へ
- iii 一つに集中しないで、対立がある場合は、i に返ります。
- iv 対立や異議が続く場合は、まとめる意見や新しい意見を求めます。

このようにしながら「自分もよく、みんなもよい」方法を見出していくようにします。

「くらべ合う」段階で、賛成、反対の意見を言い合うだけの「意見発表会」や、反対意見ばかりの「消去法」にならないようにするには、友達の意見に付け足したり、質問して不明な点について明確にしたりして、友達の意見に即して発言するよう助言し、折り合いを付けた合意に向けて話し合いが進むようにします。

一部の児童の意見のやりとりで決定したり、反対意見が集中したり、賛成・反対の数だけに着目して勝ち負けのように考えてしまったりすることがないように、必要に応じて適切な助言をするようにします。

その2) 話し合いのルールをつくる

話し合いにはルールが必要です。ただ、すべてのルールや話型を性急に与えてしまうのは賛成しません。子どもたちの話し合い活動を通してルールを見つけだしていくようにしたいものです。そのために、ルールにかかわるような発言や発言の仕方などがあった場合には、その場もしくは終わりの先生の話で意識させるような助言を行い、自分たちで築き上げたルールという形で残していくといいですね。

話し合いのルールの例を示しておきます。

◇話し手のルール（例）◆◆◆

- ・発言したいときは挙手をして、司会の指名を待って発言しよう。
- ・聞いてもらいたい人の方を向いて発言しよう。
- ・まず発言の立場（賛成、反対、質問、修正など）をはっきりさせ、それから理由を添えて発言しよう。
- ・反対意見を述べる場合には、自分の考え（代案）を必ず言おう。
- ・友達のことを取り入れた発言に心掛けよう。
- ・司会や友達が困っていたら助ける発言をしよう。
- ・自分の意見は最後まではっきり発言しよう。
- ・話し合いを一人占めにしないようにしよう。

◇聞き手のルール（例）◆◆◆

- ・発言している人の方を向いて聞こう。
- ・相手の意見の大切なところをしっかりと押さえながら、最後まできちんと聞こう。
- ・分からないところは手を挙げて聞こう。
- ・友達が間違った意見を出しても笑わないようにしよう。

◇話型のルール（例）◆◆◆

- ・新しい意見：私は、〇〇と思います。それは△△だからです。
- ・賛成の意見：ぼくは、〇〇の意見に賛成です。理由は△△だからです。
- ・反対の意見：私は、〇〇に反対です。理由は△△だからです。
- ・付け加え意見：私は、〇〇に付け加えます。
- ・質問：〇〇さんに質問しますが、◇◇とはどんなことですか。
- ・修正意見：私は〇〇したらもっといいと思います。それは◇◇だからです。
- ・励ましの意見：〇〇さんの意見はとてもよいと思います。
- ・助ける意見：〇〇さんの言いたいことは、・・・ということだと思います。
- ・統合する意見：〇〇さんと〇〇君の意見を一緒にして、…とすればいいと思います。

発言で大切なことは、ここに挙げたように、自分の考えを「私は」を主語にして発表することです。その際、自分が好きか嫌いだけでなく、提案理由や話し合いのめあてに沿って意見が言えるように指導しておくことが大事です。

1年生の段階から、自分の考えを発言する場合、「〇〇がいいです。わけは△△だからです。」という形で、理由を添えて発表できるように指導していきます。初めのうちは、理由が言えない子どももいますが、それも認めながら、徐々に理由を言えるように指導します。

学年が上がったら、話型に捉われず、根拠（理由）を明確にして自分の考えや思いを自分の言葉で説明できるように指導します。

その3）話し合いの過程が目に見えるようにする（可視化）

*短冊にまとめておく

意見を比べ合うには、どういう意見が出ているのか「見える」ようにしておくことが大事です。そのために、意見を短冊に書いておくと役に立ちます。

短冊にまとめておくと、似たような意見が重なったり、たくさんの意見が羅列されたりした場合、意見を整理することで比べやすくなります。その際、似た意見の短冊を一つにまとめたり、短冊を移動して順序を変えたりすると話し合う視点が分かりやすくなります。

なお、話し合いの中で、決定されなかった案の短冊は、話し合いの展開によって復活する場合があります。取り外してしまうことがないようにします。

*** 図や表にまとめる**

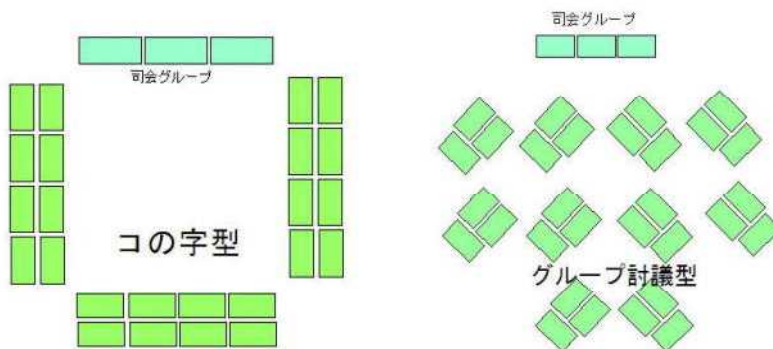
その4) 意見の検討の仕方を指導する

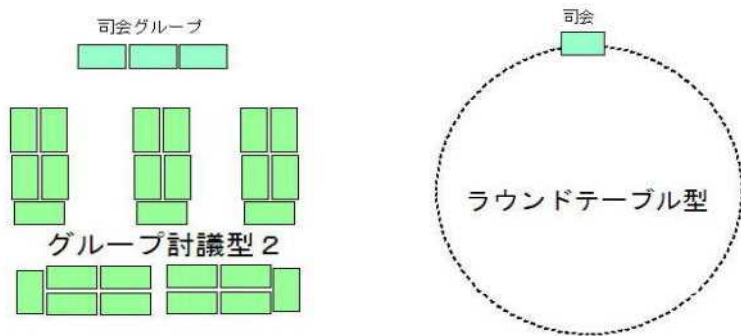
安易な多数決に陥らないようにするには、意見の検討の仕方も指導しておく必要があります。そのために、次のような視点を押えておくと便利です。

- ア) 提案者の願いを実現するのはどれだろう。
- イ) 学級にとって、どんな意味があるのだろう。
- ウ) 「めあて」にあっているのはどれだろう。(以上、建前意識をもちやすい観点)
- エ) どちらが楽しいだろう、面白いだろう。
- オ) 自分がやりたい(得意な)のはどれだろう。
- カ) どちらが簡単でやりやすいだろう。(以上が本音的観点)
- キ) 他の人にとって、どんないいこと(悪いこと)があるだろう。
- ク) 「もし～なら」と予想してみて、どんないいこと(悪いこと)があるだろう。

その5) 座席の作り方を工夫する

話し合いを活発に行わせるためには、座席の作り方を工夫するのも一つの手です。基本的には、コの字型につくることが多いのですが、必要に応じて、班の形にしたり、円形にしたりします。





その6) 少数意見を大事にする

少数意見を大事にしているかどうかは、子どもたちの話し合いに対する意欲が高まってくるかどうかに関わってくる大事な問題です。

少数意見というのは、どうしても孤立しやすいものです。そこで、普段から次のようなことに気をつけて指導しておくことが大切です。

- (1) 少数意見を出してくれたことに対する勇気を認め、激励する。
- (2) 多数意見と少数意見の相違点を考えさせ、よい方向へと話し合いを進展させる。
- (3) 少数意見のいいところを見つけだし、多数意見を修正する。

その7) 話し合いを活発にするための5つのチェック

最後にチェックを！ 話し合い活動が活発になるかどうか、次の5つのチェックを試してみてください。

- ◇ 学級内に好ましい人間関係ができていますか？
- ◇ 話し合いの仕方が身に付いていますか？
- ◇ 個に応じた指導・助言がなされていますか？
- ◇ 他学級との交流が図られていますか？
- ◇ 計画委員会の際、適切な指導がなされていますか？